

第10回WHC42会開催記録（2016年3月29日）

今年は3月21日に東京のソメイヨシノの開花宣言が出されましたが、その後何日も花冷えの日があったので、開き始めた花がつぼみに戻ってしまうのではないかと案じながら迎えた29日、42会のメンバーが中目黒駅に集合しました。幸い、前日の小雨模様とは打って変わった快晴で、朝方の冷え込みも解消していました。

今回の花見は、近年とみに人気の高まってきた目黒川。目黒は20年ほど前の私の勤務地で、その時季の桜は確かに見事でしたが、花見の名所として今ほど全国銘柄ではなかったように記憶しています。

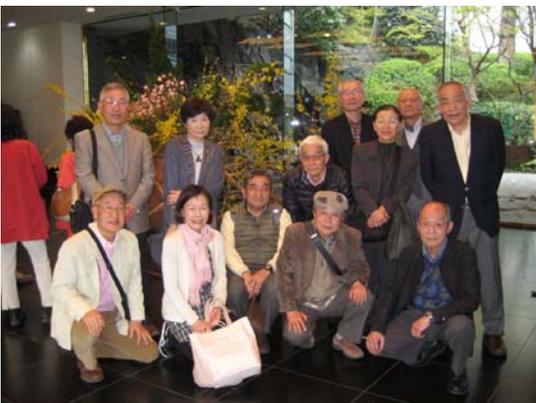


全員が集ってから、まず川沿いの道を少し遡った、その名も「桜橋」まで行きました。この辺りは川幅が狭くなっているため、左右の川岸から張り出した桜が重なり合ってアーチ状に川を覆って桜密度がすごく高い、目黒川きっての花見スポットです。が、つぼみに戻ることはなかったものの、咲き具合はまだ2分から3分というところでした。

その後、広がって緩やかな、そして意外ときれいな川の流れに沿うようにして遊歩道を歩きました。目黒川が他の桜名所に、桜を見ながらゆっくり散策するのに適しており、大木でも枝が横に広がっているため、桜の花を見上げることなく、目の高さの桜を間近に見られることです。日当たりの良い所の木は半分くらい咲いているかと思えば、1本全部つぼみという木もありました。大勢の人が遊歩道を行き交い、我々と同年配者だけでなく、平日の昼前というのに、若い人のグループやカップルがかなり多かったのは驚きでした。晴天の下の楽しい散策に満足しつつ、中には話につき熱が入ってか、歩みが遅くなってしまう人も見受けられました。3.8km、800本といわれる目黒川の桜の遊歩道の6割ほどを1時間くらいで歩いて目黒雅叙園に着き、きらびやかな建物の中の通路を歩いて会食場の「旬遊紀」へ入りました。

まずはいよいよコウレイとなった42会産みの母・縹（日向寺）の開会宣言、次いで地元・目黒で幼少期から青春期までを過ごした山口（赤坂）の発声による乾杯で宴会開始。この会としては、久しぶりの中華料理に舌鼓を打ち、ビールや紹興酒のグラスを傾けながら、ひとしきり話がはずんだ後、これもコウレイの近況報告へと進みました。この1年間の身に相当の変化があった人の身につまされる話、前年とほとんど変わらぬ生活を送った人の何気ない話、それぞれ傾聴に値するお話を聞くことができました。例年に比べ、自分の話は手短かに、他人の話にチャチャを入れず、スムーズに運んだように思います。また、今年のOB夏合宿を51年前の現役3年生時の合宿地であった八幡平で行うことが披露され、参加者の仮募集も行われました。

2時間ほどで会食会場を切り上げ、館内がごった返す中をかき分けるようにして、カフェラウンジでしばらく話の続きをして1時間半、来春の再会を約束して散会しました。外に出ると、日中の晴天と暖かさのせいか、朝方よりずっと桜の花が開いたように見えました。見頃には早かったものの、晴天に恵まれた一日でした。



2006年に再会した42会は、その後、東日本大震災の年を除いて毎年春に開催し、今年は第10回の節目の年になりました。ただ、メンバーにそれぞれご都合ある方もおられて、参加者が過去最少の13名にとどまったのは少し残念でした。次回の参加者回復に期待しています。

雅叙園（が・じ・よ・えん）を折り込み詠める・・・

「岳友集いて 13人が 酔うて語らう 宴^{えん}楽し」

（五十嵐昭）

<画像の12名+田上氏=13名参加>